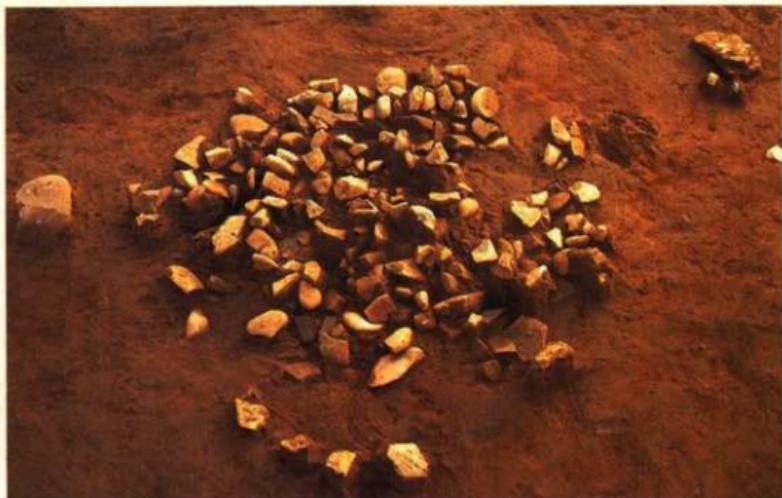


田野町文化財調査報告書第9集

まえ はた
前 畑 第 1 遺 跡

県営農地保全整備事業八重地区に
伴う埋蔵文化財発掘調査概要



1990

た の
宮崎県宮崎郡田野町教育委員会

序

田野町は、鰐塚山をはじめとする、緑豊かな山並みに囲まれた田野盆地にあります。この環境の中に先人たちは、石器時代から近世に至るまでの長い歴史の足跡を残しています。近年町内では、農地保全整備事業等の開発に伴なう発掘調査が盛んに行われており、徐々にその様子を現しはじめました。

平成元年度田野町では、前年度にひき続き宮崎県の委託を受けて、県営農地保全整備事業八重地区に伴う、前畠第1遺跡の発掘調査を実施しました。

八重地区は古代遺跡の宝庫として以前から知られていましたが、このたびの調査でも、縄文時代早期の集石遺構や土坑が発掘され、土器や石器などの貴重な文化財が出土しています。

今後これらの資料が文化財の保護、啓発はもとより、田野町の歴史のすばらしさを知っていただくために役立てば、幸甚のいたりであります。

なお、発掘調査を実施するにあたり、八重地区住民の方々をはじめ、関係各機関の皆様には、多大なるご理解ご協力をいただきました。ここに記して感謝申し上げます。

平成2年3月31日

田野町教育委員会

教育長 鍋倉 政信

例　　言

1. 本書は、田野町八重地区の県営農地保全整備事業に伴い、平成元年度に実施した前畠第1遺跡の発掘調査概要報告書である。

2. 調査組織は次のとおりである。

調査主体 田野町教育委員会

教育長 鍋倉政信

社会教育課長 北村光雄

社会教育係長 長友啓泰

社会教育係

主査 横間泰子（調査事務担当）

主事補 森田浩史（調査員）

調査指導 宮崎県教育庁 文化課

3. 本書に掲載した挿図は、遺構製図・遺物拓本を [] が作成し、森田がこれを補足修正した。

4. 石器の実測、トレースには [] の手を煩わせた。

5. 本書の写真図版は、森田が撮影した。

6. 本書の編集・執筆は、森田が行った。

7. 本書に用いた方位は磁北、標高は海拔絶対高である。

8. 本書に用いた遺物の番号は、遺物図版・写真図版と共に通する。

9. 出土遺物は田野町教育委員会で保管している。

10. 尚、調査にあたっては田野町、山ノ口町在住の方々に調査作業員として従事していただいた。

本文目次

第1章 はじめに	1
1. 調査に至る経緯	1
2. 位置と歴史的環境	1
第2章 調査の結果	
1. 調査区の設定	5
2. A地区の遺構と遺物	5
3. C地区の遺構と遺物	9
第3章 まとめ	10

挿図目次

第1図 遺跡分布図	2
第2図 調査区位置図	4
第3図 集石遺構平面図及び断面図	6
第4図 出上遺物実測図	6
第5図 C地区遺構配置図	7

図版目次

図版1 A地区遺物散布状況	
図版2 A地区工層断面	
図版3 B地区全景	
図版4 C地区aグリッド集石検出状況	
図版5 C地区aグリッド全景	
図版6 集石5検出状況	

- 図版7 C地区6グリッド全景
- 図版8 集石16検出状況
- 図版9 土坑9検出状況
- 図版10 土坑10検出状況
- 図版11 A地区の遺物・C地区aグリッドの遺物（褐色1下層）
- 図版12 C地区aグリッドの遺物（集石・褐色1）・（褐色2）
- 図版13 C地区bグリッドの遺物（黒褐色下層）・（褐色1）
- 図版14 C地区bグリッドの遺物（褐色1・2）・C地区出土の石器

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経緯

宮崎県宮崎郡田野町八重地区においては、昭和63年度から県営農地保全整備事業に伴う、埋蔵文化財発掘調査が実施されている。田野町では平成元年度も、同事業に伴い調査を実施した。調査に至る経緯は次のとおりである。

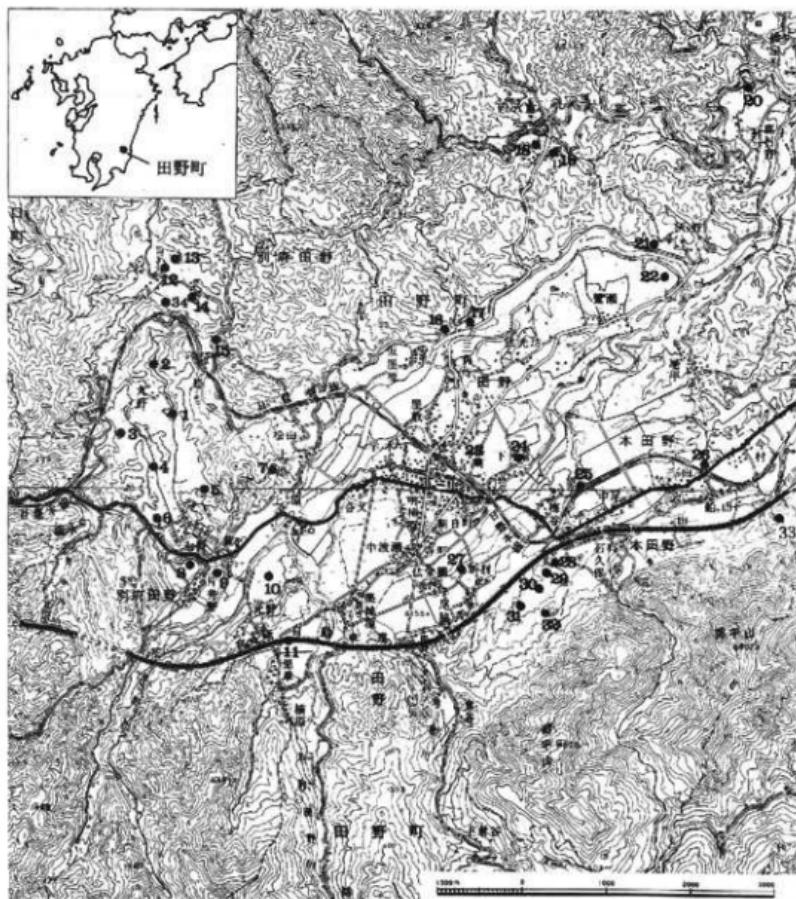
昭和64年1月19日、八重地区公民館において、平成元年度工区について中部農林振興局、八重地区土地改良区、町土地改良区、町教育委員会との間で協議がもたれたが、この段階で埋蔵文化財の分布状況、範囲等について把握していなかったので、早急に試掘調査を実施した上で、再度協議することとなった。平成元年1月31日から2月4日にかけて、県文化課により試掘調査が実施され、工事予定区の台地3ヶ所のすべてが遺跡であることを確認した。この結果をもとに、同年2月6日、県文化課、中部農林振興局、県土地改良連合会、町教育委員会の間で協議を行ない、前畠地区を予定工区とし、他の工区は翌年度以降に実施することで合意した。また、遺跡の保存については可能な限り現状保存し、不可能な部分については記録保存のための発掘調査を実施することとなった。調査は平成元年4月17日から実施し、同年10月9日までに現地における作業を終了した。同事業区においては、平成2年度も継続して調査を実施する予定である。

第2節 位置と環境

町内には多くの遺跡の分布が知られているが、近年の開発等に伴いその数はさらに増加の傾向にある。

旧石器時代は、ナイフ形石器が表採された萩ヶ瀬遺跡をはじめ、昭和58年から59年にかけて発掘調査の行われた前平地区の芳ヶ迫第1・第3遺跡、札ノ元遺跡、などがある。また、昭和63年度調査の長蔵遺跡からも石核・剝片などが出土している。

縄文時代は町内で最も遺跡数の多い時代である。早期は前畠遺跡をはじめ、既に調査済の前平地区的遺跡群、丸野第2遺跡、長蔵遺跡、八重地区遺跡などがある。特に前平地区的札ノ元遺跡、又五郎遺跡においては、当時県下初の例として竪穴住居が検出されている。前期は丸野第2遺跡E地区から遺物が、長蔵遺跡、八重地区遺跡から



第1図 前畠第1遺跡及び周辺遺跡分布図

- | | | | |
|-----------|---------------|---------------|-------------|
| 1. 丸野第2遺跡 | 10. 高野原地下式横穴墓 | 19. 堀口B遺跡 | 28. 又五郎遺跡 |
| 2. 丸野第1遺跡 | 11. 黒草遺跡 | 20. ズクノ山遺跡 | 29. 札ノ元遺跡 |
| 3. 長戸遺跡 | 12. 八重B遺跡 | 21. 灰ヶ野地下式横穴墓 | 30. 芳ヶ迫第1遺跡 |
| 4. 七野第1遺跡 | 13. 八重C遺跡 | 22. 灰ヶ野遺跡 | 31. 芳ヶ迫第3遺跡 |
| 5. 七野第2遺跡 | 14. 八重A遺跡 | 23. 桜町遺跡 | 32. 芳ヶ迫第2遺跡 |
| 6. 七野第3遺跡 | 15. 前畠遺跡 | 24. 井倉洞穴遺跡 | 33. 合子ヶ谷遺跡 |
| 7. 天達神社址 | 16. 田野城址 | 25. 梅谷城址 | 34. 前畠第1遺跡 |
| 8. 片井野遺跡 | 17. 萩ヶ瀬遺跡 | 26. 船ヶ山遺跡 | |
| 9. ヒダカン城址 | 18. 堀口A遺跡 | 27. 青木遺跡 | |

遺物、遺構（土坑など）が検出されている。中期の資料は丸野第2遺跡で出土した凹線文土器のみである。後期は丸野第1遺跡、黒草遺跡の他、指宿式・綫式・下弓田式（市来式）などが出土した青木遺跡がある。晩期は丸野第1遺跡の他、晩期前半の土器が出土した芳ヶ迫第1・第3遺跡がある。

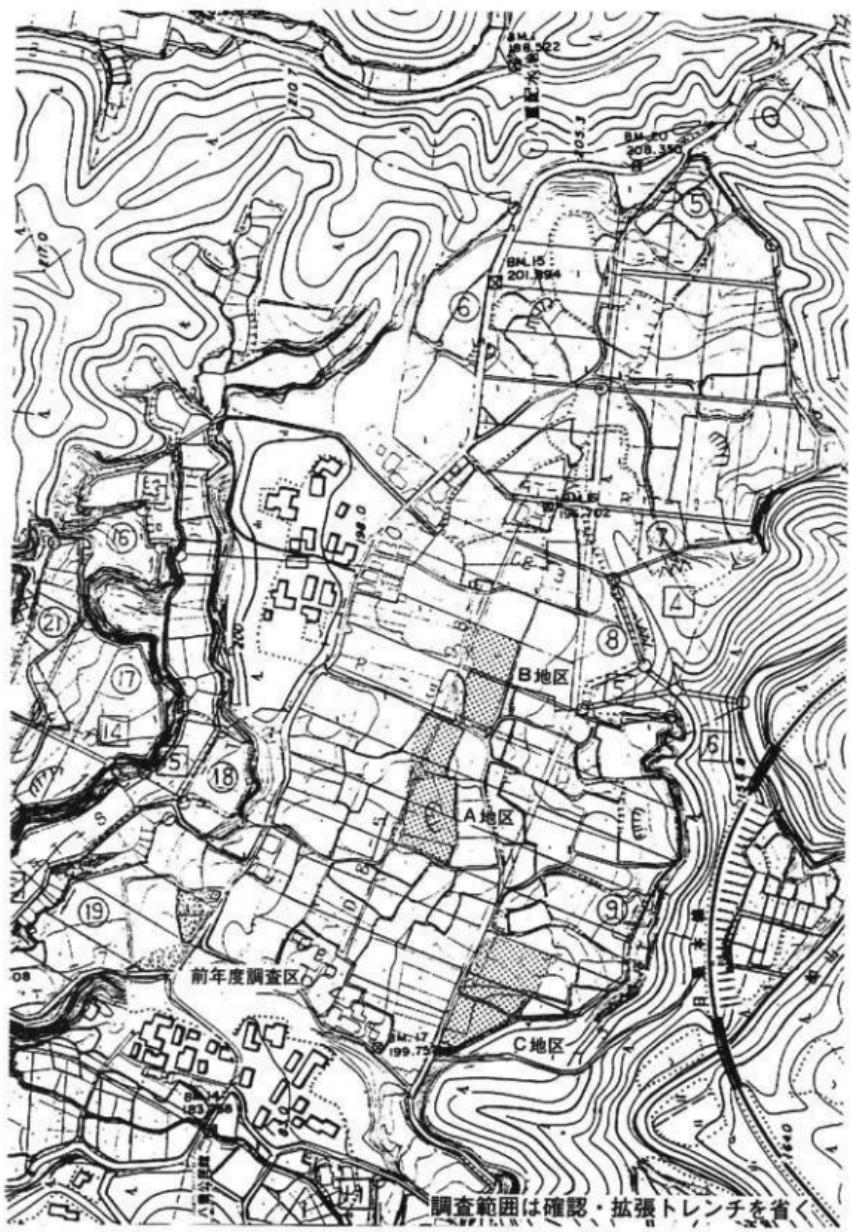
弥生時代は丸野第2遺跡E地区で中期の土器が、同A地区で後期前半の、八重地区遺跡B地区で後期初頭の竪穴住居跡が検出されている。また黒草遺跡では終末期の土器が確認されている。

古墳時代は灰ヶ野と高野原に地下式横穴墓があるが、遺物散布地などは確認されていない。

古代においては、合子ヶ谷遺跡で平安時代の布目痕土器が出土している。また田野町は宮崎平野から清武町を経て都城盆地、大隅へ至る、交通の要衝の地であったと考えられており、延喜式に見られる日向16駅のひとつである「救式駅」の所在を町内に想定する説もある。

中世から近世にかけては、他の城址を中心として山城や社寺・墓地などがあるが、文献等を含めて、まだまだ未解明の時代である。芳ヶ迫第2遺跡では、備前焼の甕や東播系片口鉢などの中世陶器、青磁器が出土している。

以上のように、田野町の遺跡は縄文時代がその大半を占めている。平成元年度田野町では、町内遺跡詳細分布調査を実施しており、縄文時代はもとより、平安時代の遺跡もかなり増加するものと見られる。また、今後も発掘調査が頻繁に行なわれる可能性があり、これらの資料が田野町史の空白部分を埋めていくことであろう。



第2章 調査の結果

第1節 調査区の設定

前畠第1遺跡は、八重地区の中心よりやや東側の台地上に位置し、そのほぼ全面が畑地である。調査区は地形、地割等から、便宜的にA・B・Cの3地区を設定した。調査面積はA地区 4,000m²、B地区 3,000m²、C地区 2,000m²の全体で約 9,000m²に至った。A・C地区においては縄文時代早期の遺構・遺物が検出されたが、B地区においては遺構・遺物ともに見られず、土層の堆積状況、旧地形を記録するにとどまった。ここではA・C地区の調査概要のみ報告する。

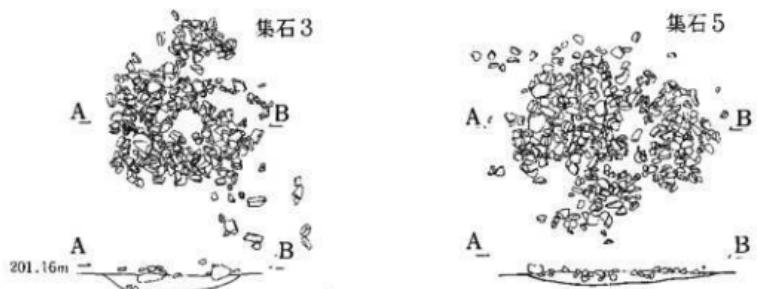
第2節 A地区の遺構と遺物

A地区は、表土(耕作土)・黒色土層・アカホヤ層・黒褐色土層・褐色土層1・褐色土層2・黄褐色土層を基本層序とし、黒褐色土層・褐色土層から縄文時代早期の土器、石器が出土している。

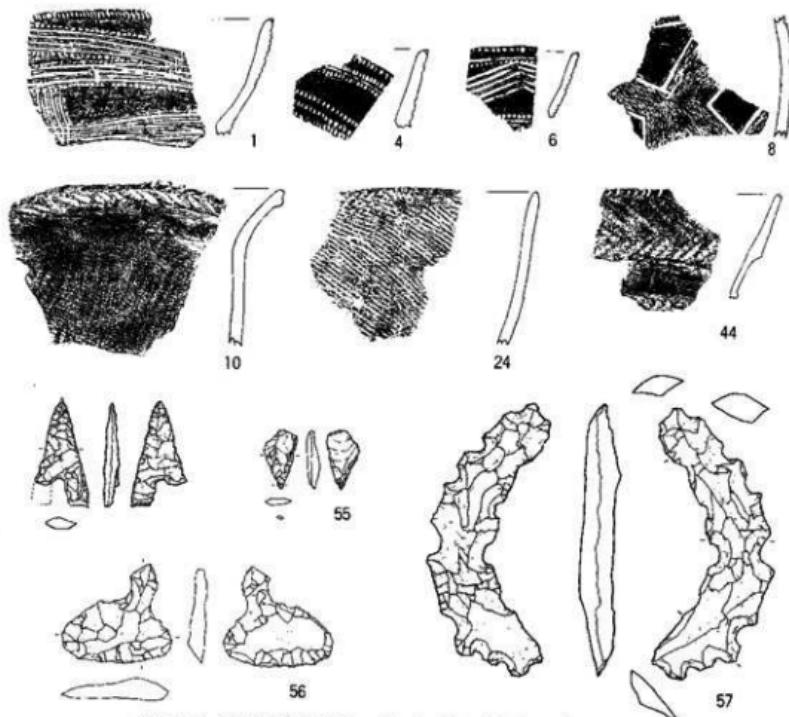
調査区の旧地形は北端から南側にかけて傾斜しており、表土を除去した段階でかなりの高低差が見られた。この北端部分については褐色土2まで耕作による擾乱を受けている。

遺構検出はアカホヤ層・黒褐色土層・褐色土層1・褐色土層2の各上面においておこなった。アカホヤ層から黒褐色土層にかけて遺構は見られず、褐色土層1(南畦断面)褐色土層2上面でピットを検出したのみにとどまり、遺物の出土量に反して遺物の密度は薄い。各遺構とも遺物の出土は無かったが、検出層位から縄文時代早期のものと見られる。調査区は弥生時代後期の住居跡が検出された前年度調査の八重地区遺跡B区に近接しているため、この時代の遺構・遺物の出土が予測されたが、表面採集の遺物中すら見出すことはできなかった。

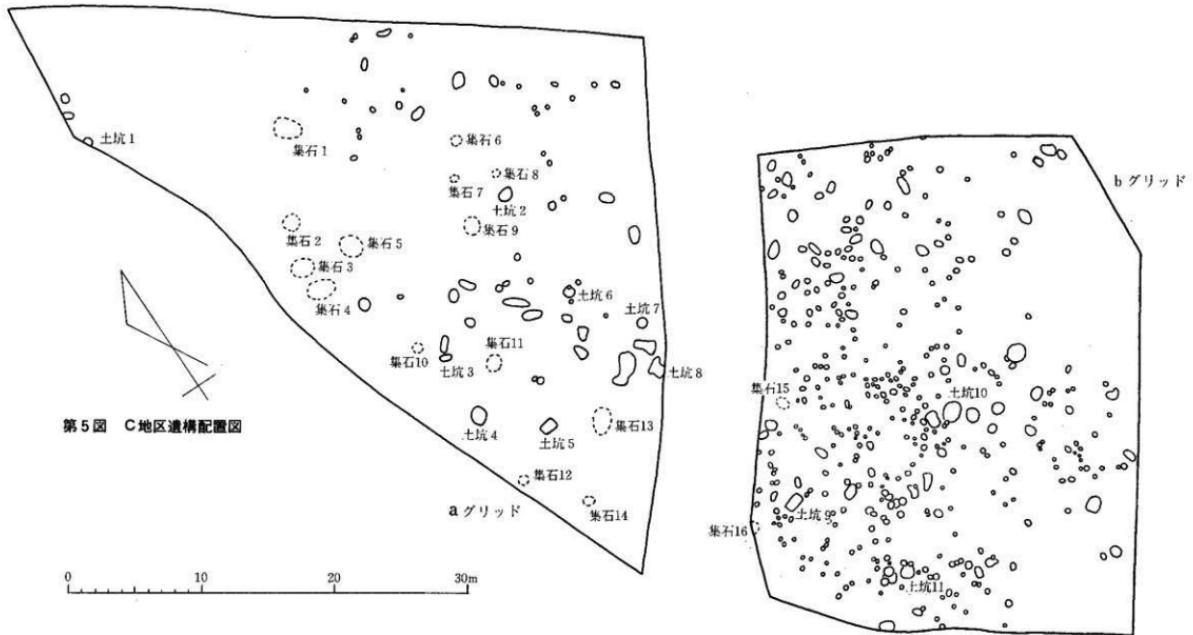
遺物は早期の塞ノ神式土器(1～9)の他、石鎌・石錐・石核・剝片などが出土した。塞ノ神式土器(1～3・5・6)は口縁端部に刻み目をめぐらし、口縁部から頸部にかけて1条から数条の凹線文と、一部それに並行する刺突文が施される。(7)は頸部、(8)は胸部、(9)は底部で、幾何学的な凹線により無文帯と撚糸文を施す文様帯とを画す。



第3図 集石遺構平面図及び断面図 $S=\frac{1}{4}$



第4図 遺物実測図 $S=\frac{1}{4}$ ただし 石器は $S=\frac{1}{2}$



第5図 C地区遺構配置図

第3節 C地区の遺構と遺物

C地区は便宜上 a グリッド、b グリッドに分けて調査を実施した。C地区の基本層序はA地区とほぼ同じである。遺物は黒褐色土層、褐色土層1、褐色土層2から縄文早期の土器、石器が出土している。

遺構検出は褐色土層1と黄褐色土層の各上面においておこなった。集石遺構は褐色土層上面と、その掘り下げ段階で a グリッドにおいて13基（集石1～14）、b グリッドにおいて2基（集石13・15）を検出した。遺存状態の悪さもあるが、浅い掘り込みを持つものの他、大半は掘り込みを確認できないものであった。遺物は（集石1・7・8・13・16）から、それぞれ出土している。その他、土坑等についてはこの面において確認できなかった。黄褐色土層上面においては土坑・ピット等を多数検出した。土坑の形状は長方形、円形、不整形なものと様々であった。土坑1・5・6・8から土器片が出土している。

遺物は塞ノ神式土器（25～28・47）、平梅式土器（10・13～23・29～35・37～46）、押型文土器（11）、無文土器と石鏃（46～54）、石錐（55）、石匙（56）、石核、剝片の他、異形石器（57）等が出土している。その他、（12・24・27・36）については細分を避けた。（47・50・54）は表土内、（16・29～36）は黒褐色土下層、（10～12・17～22・37～42・44～46・48・49・51～53・55・56）は褐色土層1、（24・28・43）は褐色土層2の、それぞれ掘り下げ段階で、（57）はその最下層において出土したものである。（25・26・28）については、上層から掘り込んだ遺構内に埋没していたものと考えられる。（13・14）は集石7、（15）は集石6からの出土である。石鏃はいずれも凹基無茎石鏃であるが、その形状、法量、石材はバラエティに富む。異形石器は岩手県の貝鳥貝塚において鋸歯状石器として報告されているほか、全国的にも希少であり、九州県下には出土例を見ないものである。

第3章　まとめ

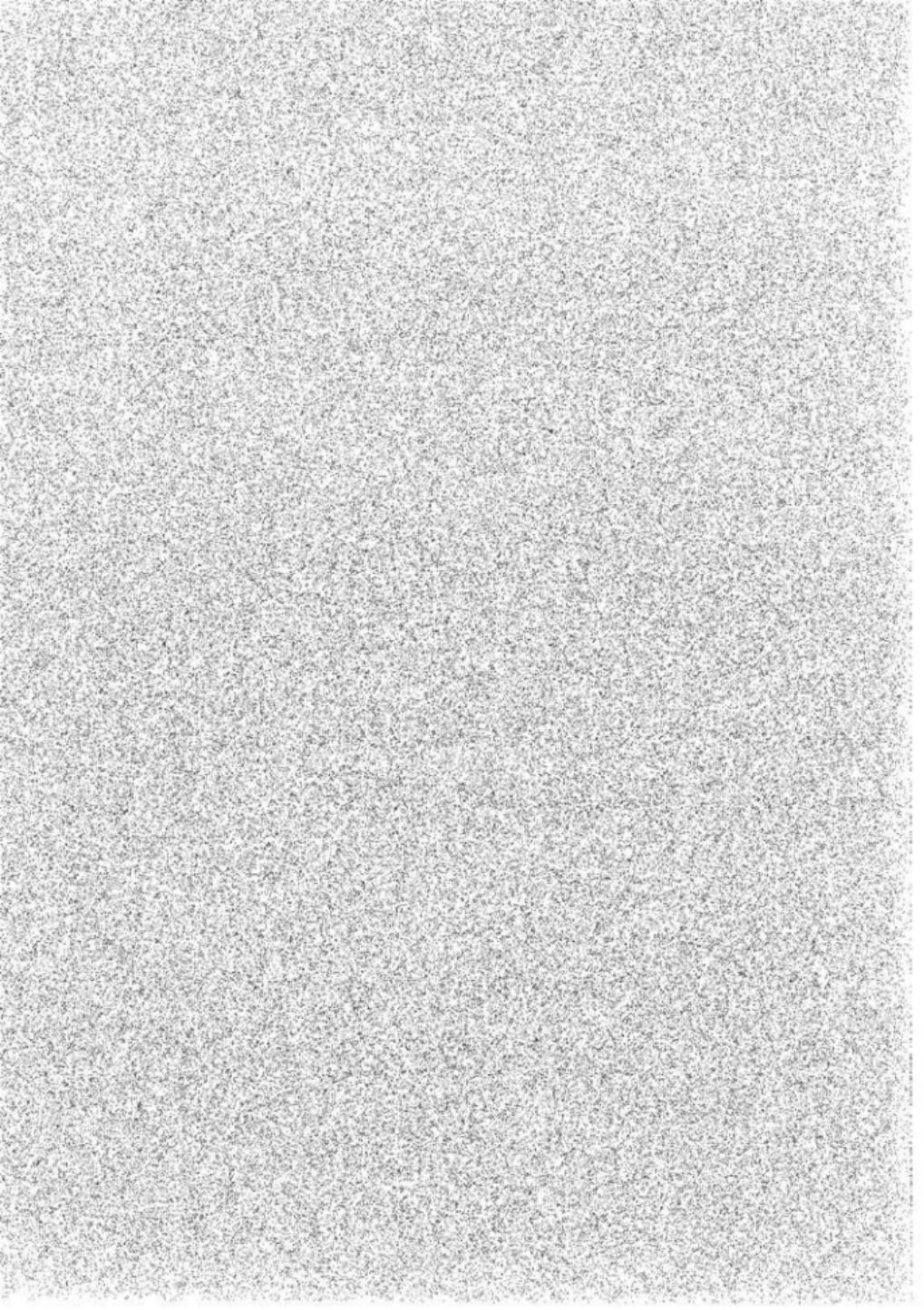
調査の結果、前畠第1遺跡は縄文時代早期を中心とする遺跡であることが明らかになった。A地区においては遺構を検出できなかったものの、早期寒ノ神式土器の様々な資料が得られた。また、これに近接する前年度調査を実施した八重地区遺跡B地区において、弥生時代後期初頭の住居址、遺物が検出されているが、その拡がりがここまで達していなかったことも確認できた。B地区においては遺構、遺物ともに見られなかったことから、この部分が遺跡の中で空白地帯であったことを想定できる。C地区においては平桟式土器、塞ノ神式土器、無文土器と異形石器を含む各種石器のほか、県下では類例を見出せない土器も出土しており、早期の中にあって、かなりの時間的な幅をもって遺跡が営まれていたものと見られる。また、出土遺物の大半を占める平桟式土器は、口縁部が直線的なもの、波状を呈するもの、口縁部肥厚部分の幅が広いもの、狭いものがあり、特に文様構成においては刻み目、沈線（直線・山形・波状・羽状）、撚糸文、刺突列点文、押し引きによる列点文などをそれぞれ単純に組み合わせるものから、極めて複雑なものまでバリエーションに富んだ様相が見られる。県下ではまだ調査例の乏しいものであり、今後報告書を作成する段階で、慎重に操作していくたい。異形石器の出土例は、前述したように希少であり、しかも後・晩期の遺跡において報告されている点で興味深い。遺構は集石が検出されてはいるものの、住居址を確認するには至らなかったが、bグリッドにおいてピット群が見られ、遺物の出土状況とも併せて再検討を要するところである。

以上、これらの調査成果は今後の宮崎県における縄文土器研究の資料として、資するところ大となるであろう。

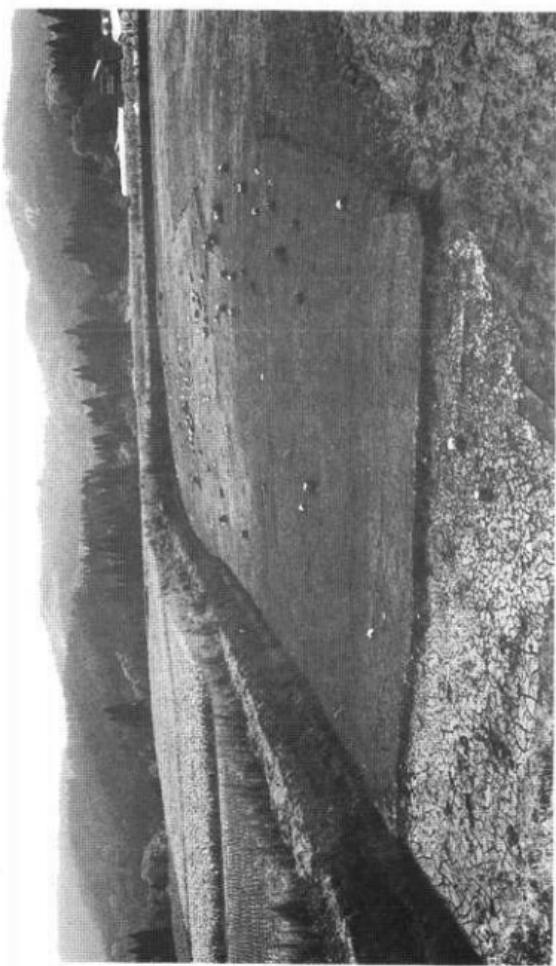
《参考文献》

- 田野町教育委員会「県宮農地開発事業前平地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」田野町文化財調査報告書第3集 1986
新東覚一「火山灰からみた南九州縄文早・中期の諸様相」「陵山猛先生古稀記念・古文化論叢」1980
新東覚一「寒ノ神式土器」「縄文文化の研究4」雄山閣出版
岩永哲夫「九州東南部における縄文早期遺跡の概観」宮崎県総合博物館研究紀要13 1988.3
岩永哲夫「平桟式土器」「宮崎考古 石川恒太郎先生米寿記念特集号 上巻」宮崎考古学会 1989.7

写 真 図 版

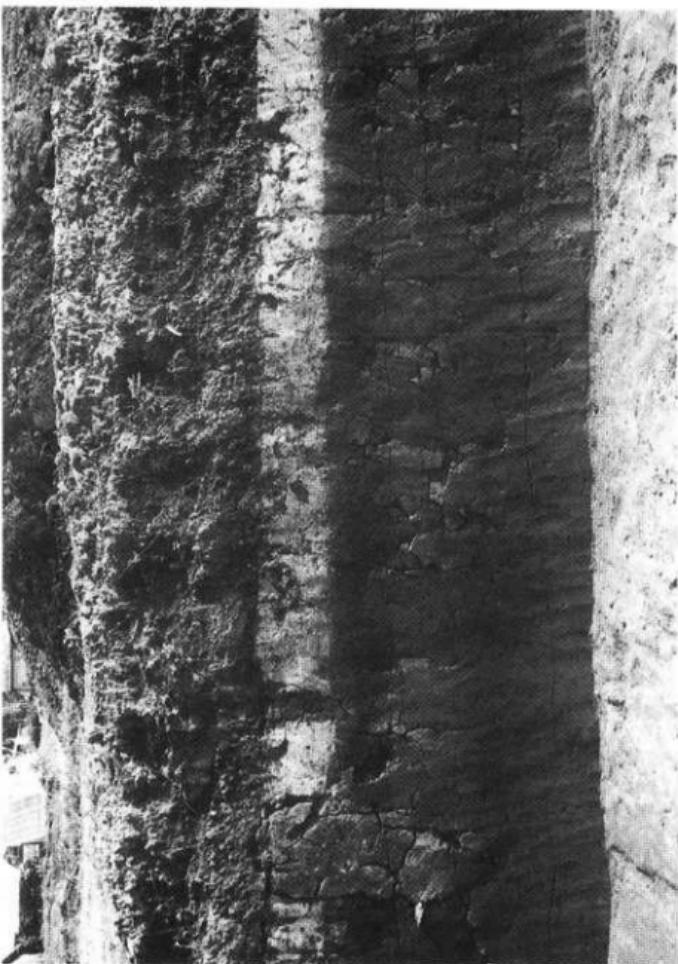


図版1



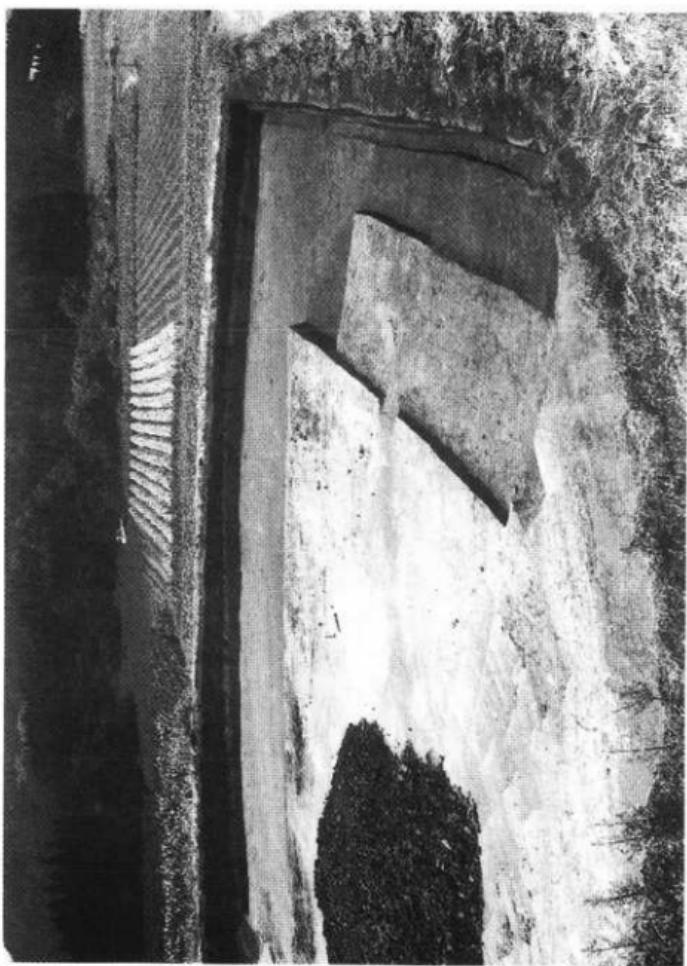
A地区遺物散布状況

図版 2



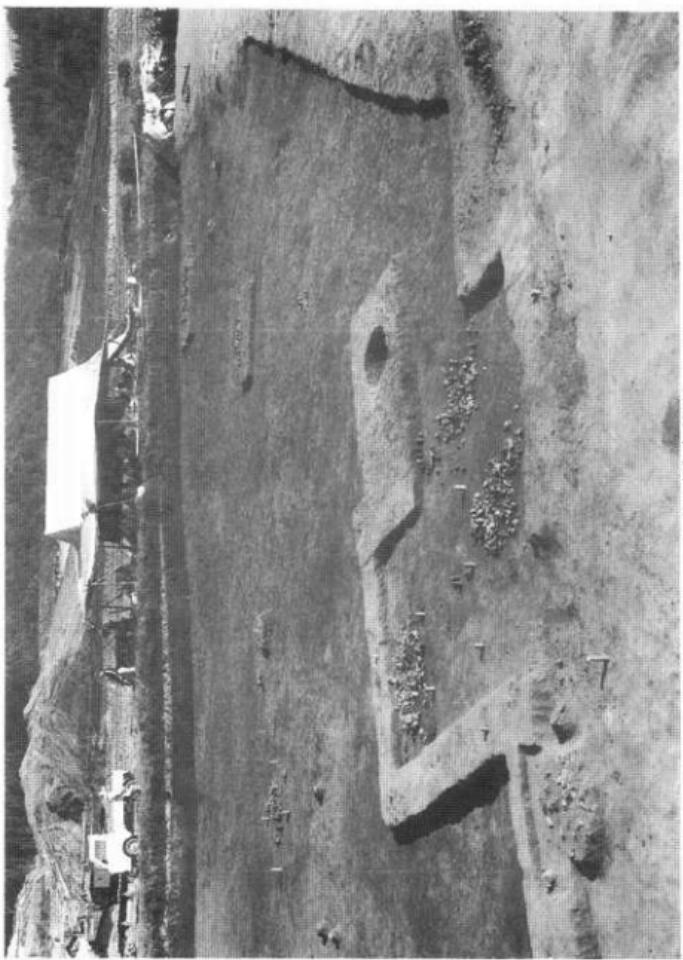
A 地区土壌断面

図版 3



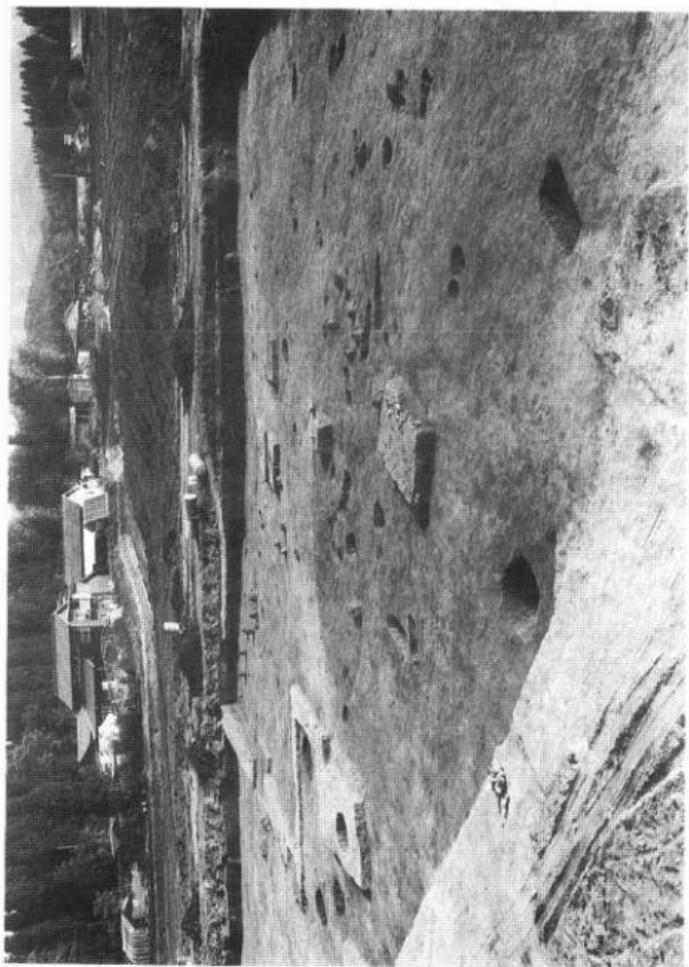
B 地区全景

図版 4



C 地区アグリット集石検出状況

図版5



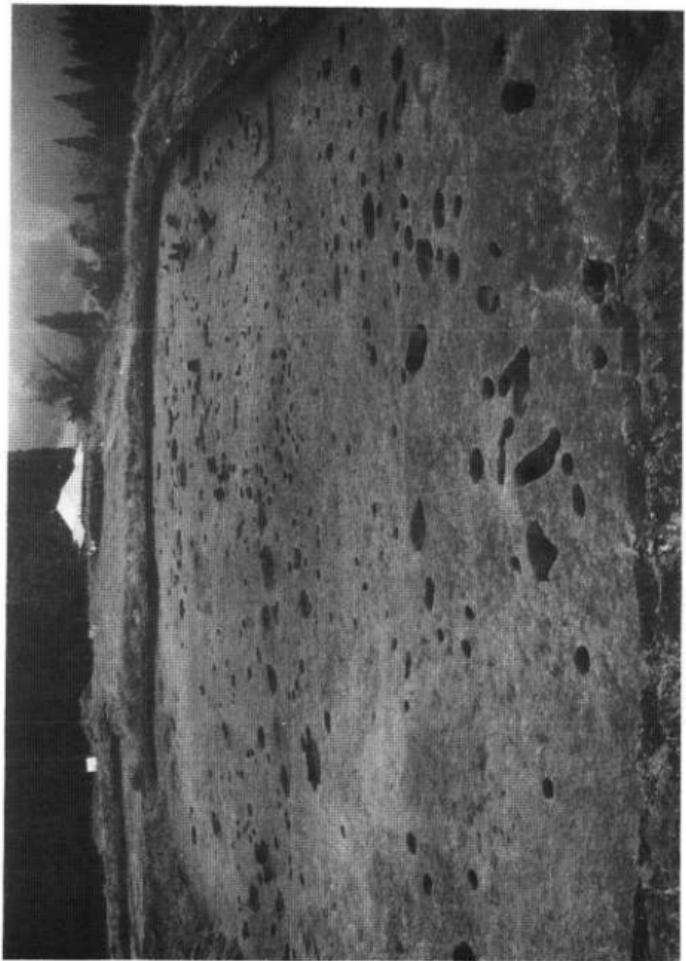
C地×a クリッド全景

図版 6



集石 5 検出状況

図版 7



C 地区 b グリッド全景

図版 8



集石16検出状況



集石16検出状況